

共生

奈良県生協連

2014年4月

NO.92

万葉のいぶきを求めて—(57)



すみれの花

春の野に すみれ摘みにと 来しわれそ 野をなつかしみ 一夜寝にける
山 部 赤 人

春の野に、すみれを摘もうと思ってやって来た私は、野にひかれて、一晩寝てしまったよ。若菜を摘む美しい乙女の姿に、かすかな風にも細い首や花が震えている、すみれの姿がオーバーラップし、野を懐かしむ心情へと転化して行く。これは万葉の世界の今までになかった新しい自然観、新しい美の発見といえるかもしれません。この歌は、平安時代の好みに合ったのでしょうか、源氏物語にも引用され、古今集の序文にも、山部赤人を評して「その歌は、この世のものとも思われぬまでに巧みであった」と評価しています。

古くは、すみれは薬草であり、食用にも供されてきました。万葉集には、この赤人の歌の他に3首が詠まれています。子供の頃に見た、田や畑の草むらの中に、ひっそりと咲く姿は印象的でした。現在日本には約50種ばかりあるようですが、最近は見かけることが少なくなりました。そんな折、通りすがりの道端で見かけたすみれの花は実にきれいでした。

2014年度 奈良県生協連の取り組み

消費税増税やTPP交渉が進むことでの暮らしへの影響、東日本大震災の被災地復興の遅れへの懸念、放射能汚染水問題など、様々な不安を抱えたまま新年度がはじまりました。

このような中でわたしたち奈良県生協連は、よりよいくらしと安心して住みよい地域づくりをめざして会員生協や全国の仲間と力をあわせ、県内諸団体、行政の皆様のお力を借りながら、今年度次のようなことに取り組んでまいります。

2014年度の重点課題

- (1) 協同組合の理念と実践を地域に広げます
- (2) くらしと社会の問題を学び考えあう場をつくります
- (3) 消費者市民社会の実現をめざし地域ネットワークによる消費者教育にとりくみます
- (4) 東日本大震災を忘れず復興支援にかかわります
- (5) よりよい奈良の明日のために南部東部地域活性化にかかわります
- (6) 医療福祉生協の事業安定化を支援します
- (7) 会員生協の活動支援と連帯を強めます

具体的なすすめかた

協同組合理念の実践と広報

- ① 第25回生協大会を開催し、生協の地域社会へのかかわりを考える場とします。
- ② 協同組合デーのつどいを通じた交流で協同組合間協同を強めます。
- ③ 行政、諸団体との協働をすすめ信頼関係の構築と生協の社会的役割を高めます。

学び考えあう場づくり

- ① 2015年NPT再検討会議に向けての学習をすすめます。ピースアクションの取り組みは被爆体験を語り継ぐ講演会などの企画を検討します。
- ② 再生可能エネルギーと市民の課題を学ぶ学習会を開催します。
- ③ 「食の安全懇談会」の開催などを通し、消費者の最も関心の高いテーマである食の安全と食品安全行政を学び考えます。

消費者市民社会の実現と消費者教育

- ① 集団的消費者被害回復訴訟制度の3年後施行にむけ諸団体との連携により消費者へ学習と情報発信に取り組みます。
- ② 県内の消費者教育推進なら消費者ねっと及び行政、関係機関とともに係わります。
- ③ 2年目に入ったなら消費者ねっとの活動が発展するよう事務局として支援します。

東日本大震災を忘れない

- ① 復興が進まず関心が薄らいでいるとの危機感をふまえ、被災地生協、生協連と交流するなど被災地の現状を学びかかわれる取り組みを検討します。
- ② 会員生協とともに「福島子ども保養プロジェクト in なら」、福島土壌スクリーニング、ボランティアバス運行などの活動に協力します。
- ③ 被災地の現状を伝える広報に協力します。

県南部地域活性化に参加

- ① 奈良県南部にある森林・水資源やエネルギー資源、それらを通じた人のつながりに関心を持ち続け、真の意味での豊かな地域づくりに参加をしていきます。
- ② 吉野共生プロジェクトへの参画を通し県の南部地域の活性化にかかわります。

奈良県医療福祉生協の支援

- ① 「地域の健康をみんなでつくる」医療福祉生協の運動を盛り上げます。地域社会・行政などに存在意義をアピールします。
- ② 診療所の特長や健康チェックなどの活動の広報に協力します。
- ③ 会員生協とともに加入促進と増資への協力など、組織基盤強化と事業安定化を支援します。

会員生協の活動支援と連帯

- ① 生協組合員理事交流会を実行委員会形式で開催し、連帯や協働について考えます。
- ② 奈良地区大学生協部会の活動を通し大学生協の運営を支援します。
- ③ 会員生協が取り組む多様な社会的活動に活用できる助成金を創設し、取り組みを応援します。

もくじ

2014年度奈良県生協連の取り組み ……1	環境のページ……………7
第24回奈良県生協大会……………2	地方消費者グループフォーラム……………8
ピースアクション in なら ……3	奈良県医療福祉生協創立祭……………9
生協組合員理事交流会……………4	3・11 忘れない みやぎ生協から被災地・
食の安全……………5	宮城のいまをお伝えします ……10
おじゃましました・コープ自然派奈良 ……6	

第24回奈良県生協大会

1月18日 奈良商工会議所

「地域共生社会を求めて～森、水、エネルギー そして人のきずな～」を開催しました

1月18日に、奈良商工会議所5階大ホールにて、奈良県生協大会「地域共生社会を求めて～森、水、エネルギー そして人のきずな～」を開催し、生協の組合員や市民など148人が参加しました。



奈良県くらし創造部影山清部長

ご来賓の、奈良県くらし創造部部长影山清様からご挨拶を頂きました。また、川上村 栗山忠昭村長、賀川記念館館長 賀川督明氏、奈良県農業協同組合中央会 浅井真人専務理事をはじめ、市町村行政の皆様、諸団体の皆様にご臨席を頂きました。十津川村更谷慈禧村長、奈良県農業協同組合中央会永田正利会長からメッセージ・祝電を頂戴しました。



始めに生協総研主任研究員の栗本昭氏より、「地域づくりと協同組合の可能性」をテーマに生協が地域社会にかかわることの意味や生協の取り組みが紹介されました。生協が取り組むべき領域として地域包括ケアシステム、生活困窮者自立支援、再生可能エネルギーを提案され、地域の共生を進めるには、ささえる側の力をつけること、またNPOや行政など様々な主体との協働ですめることが大切であると話されました。



栗本 昭 氏

次に「エコでヒューマンな自立できる村づくり」をテーマに、吉野町小水力利用



岸田 かおる 氏

推進協議会の岸田かおる氏より、吉野町殿川地区の集会所での、側溝のような小さな河川で2～10w出力の水車により、外灯を灯すなどの普及活動の様子が報告されました。小さな灯が、地域の共有財産としての小水力発電と人のつながりネットワーク、各地区のピコ発電や農林水産品がソーシャルな価値を創造していきます。今後、吉野協議会へと地域を越え、世代を超えた新たなコミュニティの創出を求めていきたいと話されました。

トークコーナーでは、吉野町北岡篤町長から「新エネルギーのまち吉野町」を目指しての取り組みについて、奈良県森林組合連合会の山本陽一会長からは森林の多面的機能について、近畿労働金庫の法橋聡部長より社会貢献預金「すまいる」での災害復興支援（十津川道普請）について、奈良教育大学生協学生委員の松本顕良氏、喜多彩乃氏より「なんゆう祭」に参加した際に感じた災害の大きさと人の絆の強さと吉野地域に対する思いを、ならコープの紙森美保氏からはなんゆう祭で出会った人々のお話を中心に「共に暮らすこと」について、報告がありました。会場から、川上村栗山忠昭村長が「なんゆう祭協力へのお礼と人の絆の大切さ」について、賀川記念館賀川督明館長が「5月の協同シンポジウムで提起した『永住できる奈良づくり』に向けての取り組みが協働の力でますます進むことへの期待」について発言されました。参加者からは、「地域共生社会づくりにおける生協の役割と可能性」「吉野地域での活発な取り組みと熱い思いに対する感動と今後への期待」「人のつながりが地域をつくることへの感動」など多くの感想をいただきました。

吉野町
北岡町長森林組合連合会
山本会長近畿ろうきん
法橋部長教育大生協
喜多氏教育大生協
松本氏ならコープ
紙森氏川上村
栗山村長賀川記念館
賀川館長

ピースアクション in なら 2014年3月8日

奈良県中小企業会館

竹本成徳さん講演会

さいごのトマト~ヒロシマをわたし自身の『ことばで』~

「ピースアクションをすすめる会」(奈良県生協連と会員生協、ならコープ平和の会、ならコープ with ユニセフの会で構成)が3月8日、元日本生協連会長で兵庫県ユニセフ協会会長の竹本成徳さんの講演会を奈良市内で開催しました。被爆者の方々の高齢化が進み体験を語り継いでいくことが今一番大切な課題といわれるなか、小中学生の参加も含めて会場には100名を超える参加者があつまり、核兵器のない平和な世界への願いを次世代へつなぐ一歩を考える機会となりました。

◆昭和20年8月6日原子爆弾が広島に投下されたとき、当時旧制中学生だった竹本さんは市街中心部で被爆しましたが奇跡的に助かりました。このときにいったいどのようなことが起こったのか、ご自身の体験をご自身のことばで語っていただきました。この内容は著書「さいごのトマト」にも書き留めておられます。また、現在の広島市街でその時に逃げまどい歩いた道筋をたどって撮影した映像も語り継ぐための記録として作成しておられます。

◆この映像をまず上映したあと、竹本さんのお話が始まりました。奇跡的に一命を守れたこと、多くの級友が犠牲になったこと、火の海から逃れ家族と再会するまでのこと、そして次の日にお姉さまをなくされたことなど、24時間のうちの出来事を鮮明に語っていただきました。現在80歳を超えておられますがその語り口は大変強く、人類史上最悪のあやまちである原爆投下への怒りと命の重さ尊さといったものが熱く参加者の心に伝わりました。

竹本さんは、奇跡的に生き残った者として被爆体験をしっかりと語り継ぐ責任があると言われ、「核兵器を未来永劫二度と作ってはいけない、使ってはいけない」「これからの人類社会が核のない平和な社会であるために、それをつくっていくために、それぞれができることをやってみましょう」と会場に呼びかけられました。



竹本成徳さん

◆講演に先立って、主催者であるピースアクションをすすめる会の取り組み報告が奈良県生協連辻専務からあり、平和首長会議総会の参加やこれまでのピースアクションの取り組みなどについて紹介しました。

◆また会場後方には展示コーナーも設置し、原爆パネルの展示やすすめる会の活動など、来場者への情報提供を行いました。

展示コーナー



参加者アンケートより

- ★平和はつくっていくもの、築っていくもの。実感しています。言葉にしなければ暗黙の了解になってしまう。
- ★次の機会があれば息子を連れて来て話しを聞かせたいと思います。前の席の小中学生の涙ぐんだ目を見て、語る力を感じました。
- ★かくへいきにはぜったいはんたい。せかいからかくへいきをなくさないでだめだと思う。おはなししてくれてありがとうございました。(8歳)
- ★「二度とあやまちをおかしません」は誰が誰に言っているのか という言葉…先生がおっしゃたように私たち、今生きている私たちが犠牲になった人々への誓いの言葉だとあらためて思います。私たち全人類が誓わなければならないと思いました。

第3回生協組合員理事交流会を開催

2014年2月24日大和郡山市民文交流館

地域の中で進められている多彩な組合員活動の交流を通しお互いの悩みや課題などを共有し「元気」をもらう場として組合員理事交流会が開催されました。みんなで奈良を良くするためになにができるかを一緒に考えようと、今年は奈良県医療福祉生協が加わり生活クラブ生協、コープ自然派奈良、ならコープの4つの生協組合員理事30名が参加しました。初めて顔を合わせる人もいる中、生協というキーワードで話も弾み楽しく進められていきました。

初めに、辻奈良県生協専務から奈良県生協連の役割や2009年に策定した将来ビジョンについて説明があり情報共有を行い、その後、各会員生協から社会的な活動も視野に入れた活動報告が行われました。

後半は、実行委員4名が進行役を務め4グループに別れ、ワークショップを行いました。ワークショップでは、①今日の報告の中で「大事に思ったこと」②生協としてすすめたいこと③各生協でできること、県連でできることを話し合い、各グループで思いを出し合い、発表してみんなで共有しました。

- 医療生協ができて、「健康が大切」とあらためて感じ、そのための場づくりや知識が増えてきた。
- 「被災地の応援」・「若い世代のパワーと元気」…20代から30代をどのように生協に結集してもらうか。
- 食の安全安心、もっと商品を知り合って、共同で開発していくことができればよい。
- それぞれの枠を取っ払って取り組めればよいこと…「男女共同参画」「ワークライフバランス」「つくること」「エネルギーをつくること」「奈良の良さを再発見すること」。
- 力を寄せ合って、手と手を取り合ったら 新たに「生まれる」。
- 「協同の力」…それぞれが取り組みをすすめながら「力を合わせて」進めることが大切。



- 大事に思ったことは生協としてやりたいことと共通している。
- 生協同士のネットワークを強め、つながりを大切にしていく。
- キーワードは、「社会貢献」「たすけあう」「安心・安全」「学ぶ」。
- 地元暮らし仲間が、連携することが大切。



- 基本のキーワードは「つながる」。
- 各生協の特色ある活動を、もっと広報していくことが大切。
- 「地産地消」「吉野共生」「情報収集」「学ぶ」。
- 県連のもとに連携し、各生協がコラボしていくことが大切。
- 各生協の素敵な商品を知り合う。
- 「弱者・高齢者への支援」「農業を守る」「有機農業を大切にする」「復興支援を県連のもとに各生協で協力してすすめる」。
- 県連があり、連携して力を合わせ、つながって活動をすすめる。



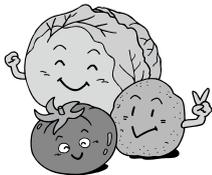
- 「奈良では」の取り組みを進める。
- 出された意見はいくつかのキーワードになる「つながる」「多様性」「ポジティブ」「健康」「次世代」「広がり」。基本は「つながる」に集約される。
- 各生協の取り組みをすすめながら、「みんなで連携」していくことが大切。
- できること、できたらいいなと思うことは、「生協のレストラン」「生協の学校」。
- それぞれの生協では特色ある取り組みをすすめられているが、連携していくことが大切。



参加者の感想からは交流の場が大事であること、生協の組合員理事という立場から生協を超えて語り合う場の必要性が出され、「同じ思いを持つ仲間という意識ができ」「元気が出る」との感想が出されました。開催日程を年度初めという要望や開催頻度をもっと多くしてほしいとの意見もいくつか出されています。今回で交流会は3回目となりこだわりや組織の違いはありますが 思いは同じであることを確認でき今後の可能性が見えてきた一日となりました。

食の安全

平成26年度奈良県食品衛生監視指導 計画案に対する意見を提出しました



1. 昨年に発生した旅館・ホテルなどの不適切なメニュー表示の問題を踏まえ、食品表示の監視・指導強化を要望します。
2. 昨年12月のアクリフーズ(株)の農薬混入事件の発生のことから、健康危機管理体制のより一層の充実を要望します。
3. 食品衛生に関する身近なテーマでの住民参加型の意見交換の場の設定の拡充を要望します。
4. 食品営業者、従事者および集団給食施設の調理従事者に対し、食中毒予防のさらなる啓発の充実を要望します。
5. 食物アレルギー検査の拡充を要望します。
6. 今年度の特徴や重点的に取り組まれたことなどを踏まえ、次年度の計画策定にあたり、どのように生かしていくのかを、どこかで文章で表現してください。

第21回 奈良県食品安全・安心懇話会 が開催されました

2014年3月7日春日野荘（奈良市）にて今年度2回目の懇話会が開催されました。

議 題

1. 平成26年度奈良県食品衛生監視指導計画（案）について
2. 平成25年度リスクコミュニケーション「ジュニア食品安全ゼミナール」開催結果について
3. 奈良県における食品衛生施設認証制度について
4. 委員からの提案議題
 - (1) 冷凍食品の農薬検出問題について
 - (2) 食品表示について
 - (3) 衛生管理について
 - (4) その他

平成26年度奈良県食品衛生監視計画案には、7名23件の意見提出がありました。

平成25年度の事象として大規模なノロウイルスによる食中毒が発生したことを記載するように求める意見が出されていました。また、アレルギー物質による健康被害発生防止策の強化、不適切なメニュー表示に対する指導監視や毒物混入の食品への監視体制の強化の要望が出されていました。



第21回 奈良県食品安全・安心懇話会の様子
(提供:奈良県消費・生活安全課 食品安全推進係)

「奈良県版HACCP認証制度」への第1歩へ

奈良県内の事業者の食品衛生のレベルを上げるためにも、ならコープと奈良県食品衛生協会が中心となって「奈良県HACCP研究会」を立ち上げ、3年で5回の研修を重ねてきました。奈良県版HACCP認証制度については、「奈良県HACCP研究会」が2014年2月にNPO法人格を取得され、同研究会を含めて、奈良県としても制度設計の段階に入ったとの表明がなされました。県内の状況を見極めながらすすめていかれるようです。

おじゃましました～コープ自然派奈良の巻～



会場は親子連れでにぎわっていました

オーブンキャンパス Day 「おひろめフェスタ in コープ自然派奈良」

3月16日 10:00～14:00

コープ自然派奈良が事務所を移転し、おひろめの会があるとお聞きし、行ってきました。県道に面したよく目立つ場所の建物です。

おひろめフェスタ当日は、大人 364 名、子ども 96 名の合計 460 名の組合員さんでにぎわいました。

生産者さんの 21 ブース、組合員さんの 4 ブースが
出展され、ステージでは和太鼓などが披露されていま
した。

組合員活動室として利用されている、広々としたガ
ラス張りの明るい部屋では、食事スペースと団体ブ
ースが展開されていました。団体ブースとして奈良県医
療福祉生協、奈良ストップ温暖化の会など 4 団体が
出展されていました。



辰巳理事長のあいさつ



給食委員会 (たまねぎプロジェクト)
学校給食を安全で安心な地元野菜で



おいしいケニアのチャイはいかが?
(日本ケニア交友会)
ケニアの貧しい地域の学校への
支援。地域の人もまきこんだ奨学
金プログラムも実施しています。



NPO自然派食育
きちんとしほん



会場内では食器はリユースで



医療福祉生活協同組合
奈良県医療福祉生協のブース(健康チェック)

COP19* 報告会

*COP19: 気候変動枠組み条約第19回締約国会議

2月1日大阪科学技術センターにて、奈良県生協連も参加する「温暖化防止ネットワーク関西」とCASA（地球環境と大気汚染を考える全国市民会議）の主催で*COP19の成果と課題についての報告会が開催され、近畿圏の生協および大阪や和歌山のNPOなど約40名が参加しました。「ワルシャワ会議（COP19）の結果と気候変動交渉の課題と展望」（名古屋大学大学院環境学研究科の高村ゆかり教授）、「日本の増加目標とCASAの削減目標提案」（CASAの早川光俊専務）の報告の後、意見交換がありました。

昨年11月開催のCOP19では、2020年から始動する法的文書の計画（目標含む）を2015年COP21に十分先駆けて先進国・途上国の区別なく『すべての締約国』が「貢献案」を作成することを要請されました。各国が定める「貢献案」は「自主」目標ではありますが、目標を出さなくても良いというものではなく、法的性質は、2014年に交渉する内容によることとなります。また、2020年までの削減水準をもっと引き上げることなども想定されています。

日本政府は1990年比3.1%という増加目標を表明し、国際交渉の場で非難を浴び、国際NGOからの不名誉な「特別化石賞」を受賞してしまいました。日本は国際的な責任を問われています。



特別化石賞を受賞する日本（提供：CASA）

低炭素の地域づくり戦略会議 奈良2013（第3回）

3月25日奈良県文化会館にて今年度3回目の戦略会議が開催されました。主催はサークルおてんとさん、奈良県地球温暖化防止活動推進センター、気候ネットワーク。奈良県（エネルギー政策課、南部東部振興課、奈良の木ブランド課）奈良市、生駒市、橿原市、斑鳩町の行政担当者はじめ、奈良県生協連、ならコープ、推進員、NPO、研究者などが出席しました。

国内外の最新情報、奈良県エネルギービジョンの推進、小水力利用の取り組み報告、市民ファンドを活用した太陽光発電事業の取り組み報告、市民協働型屋根貸し制度の提案と意見交換が行われました。この会議では、再生可能エネルギーについて2年間計6回、行政と地域のNPOや市民の取り組みの情報共有を積極的に進めてきました。吉野地域での小水力利用による町おこしや山添村でのNPOの取り組みが地域で市民の力によって広がっていることがわかりました。また、市民ファンドを活用した太陽光発電事業を行う一般社団法人が県内に2つでき、事業を開始する報告もあり、少しずつではありますが、確実に再生可能エネルギー普及が進んできています。



気候ネットワーク 豊田さん



ならコープ新本部の屋根の上で、 市民ファンドを活用した太陽光発電事業が開始

一般社団法人「地域未来エネルギー奈良」による、ならコープ新本部の屋根を借りた太陽光発電事業がこの6月から開始されます。この事業は市民などから出資募集を行ったトランスバリュー信託（株）が地域未来エネルギー奈良に融資するもので、同法人が太陽光発電事業により得た売電収入で融資金の返済に充て、さらに小水力、木質バイオマス利用なども視野に入れながら、地域活性化を目指していく方針を立てています。県内では「市民エネルギー生駒」による同様な取り組みが生駒市内でも開始されています。

「恋の窟 未来発電所@ならコープ」
の予定地

平成25年度

地方消費者グループ・フォーラム in 奈良 広げよう連携の輪！つくろう消費者市民社会！

2月12日奈良県文化会館にて開催されました。

地方消費者グループ・フォーラムは、全国8ブロックの各実行委員会と消費者庁によって、地域において消費者問題に取り組む様々な人々が参加し、情報や意見の交換を行う「交流の場」として平成22年度から開催されています。毎年消費者問題にかかわるテーマを設定し、今年度近畿ブロックでは「広げよう連携の輪！つくろう消費者市民社会」をテーマに奈良県で開催されました。

当日は近畿2府6県から174人の参加があり 壁新聞交流会および壁新聞参加団体によるリレー紹介、3つのテーマに分かれての分科会が行われました。



消費者庁 阿南長官

初めに消費者庁 阿南長官の開会あいさつ、消費者庁の取り組み報告があり、壁新聞交流会は近畿圏内で活動する消費者団体15団体と文部科学省、消費者庁が出展、開会の2時間前から開始、来場者と交流しました。奈良県からは「なら消費者ねっと」「消費者問題研究会こむらいふ奈良」「グループあんあん」「ざ・ひめみこ」が参加し、リレー紹介にも3団体が活動などを報告しました。壁新聞リレー紹介は7分という時間制限の中多彩で活発な報告となりました。



グループ あんあん ざ・ひめみこ



なら消費者ねっと リレー報告

休憩の後3つに分かれての分科会では、「広げよう



なら消費者ねっと こむらいふ奈良 ざ・ひめみこ 寸劇でリレー紹介

連携の輪」をテーマに、〈第1分科会〉～NPOと行政の連携～（報告①滋賀県湖南省消費相談窓口「学童保育講座」②兵庫県東播磨消費生活センター「特別支援学級出前講座」）、〈第2分科会〉～事業者とともにすすめる消費者教育～（報告①NACS西日本支部「相互理解を深める消費者問題懇話会」②NPO法人消費者支援機構関西「双方向コミュニケーション研究会」）、〈第3分科会〉～学生の消費者力アップ～（報告①京都市消費生活総合センター「京都市寄付講座の取り組み」②大学生協阪神事業連合「ひょうごの消費者市民社会を大学生が創造する取り組み」）—に分かれそれぞれの取り組み報告や実践事例報告のあと参加者と意見交流を行いました。



最後に子どもを事故から守る！プロジェクトテーマソング「おしえてアブ ナイカモ」を阿南長官と参加者で歌って踊って啓発活動を行いました。

奈良県医療福祉生協 第2回の創立祭が開催されました

どしゃ降りの雨の中、第2回の創立祭が開催されました。半端でない雨と風。早々にテントをたたんで、出店いただいている皆さんには診療所内とホールで模擬店を開いていただきました。残念ながら来場者数は見込みを大きく割り込みましたが、それでも健康チェックは29人の方に受けていただくことができました。しかし、たくさんの組合員に支えられている医療福祉生協です。祭りの関係者だけでも100人以上ですから、この厳しい状況の中でも、たすけあいの精神でもって模擬店にもぎわいを見せました。

生協連の関係では、ならコープ、コープ自然派奈良、労済生協、樟蔭女子大生協にも出店の協力をいただきました。本当にありがとうございます。これまで、医療福祉生協の祭りはすべて雨に祟られています。今秋の健康まつりは必ずや晴れさせますので、これに懲りず、引き続きご協力をお願いします。

さて、この祭りをもってほぼ年度終了となりましたが、医療福祉生協の組合員数は4,000人を超え、出資金も目標としていた6,000万円に達することができました。これもひとえに皆さんのおかげと感謝しています。ありがとうございました。この場をお借りして、まずはお礼とさせていただきます。



健康チェックコーナー



奈良県労済生協のブース



大阪樟蔭女子大生協小林専務



交流スペース

奈良県生協連第5回理事会報告

1月9日 奈良県文化会館

【主な審議事項】

- (1) 第24回奈良県生協大会開催に関する件(第3次)
- (2) 2014年度方針骨子の件
- (3) 2014年度(第25期)県連総会の準備等に関する件
- (4) 2014年度役員選任に関する件
- (5) その他事項の件 ①生協組合員理事交流会②2013年度県連会員生協役員研修会③ピースアクションinなら2013④第2回近畿の消費税学習討論集会⑤地方消費者グループ・フォーラムin奈良⑥2014年度主要日程案について

奈良県生協連第6回理事会報告

3月13日 奈良県文化会館

【主な審議事項】

- (1) 第24回奈良県生協大会開催の報告に関する件
- (2) 2014年度(第25期)県連総会の準備等に関する件
- (3) その他事項の件 ①奈良県生協連役員研修会について②奈良県医療福祉生協支援について③日本生協連第64回総会代議員、関西地連運営委員推薦について④「アースデー2014inなら」共催と参加要請について⑤NPOフォーラム2014「里山資本主義を奈良にVI.2～不安を希望に～」への協力名義使用について⑥2014年度日程について

2014年3月5日

3.11 を忘れない。。

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

失われた販路、減っている取引量

宮城の基幹産業である水産加工業の売上げは、設備がある程度整ったいまも震災前の水準に戻っていません。

理由は、震災で一度途絶えた販路が回復しないことや、販路は戻っても取引量が減少していること、人手不足で工場の稼働率が下がっていることなど、さまざまです。

阿部善久さん（塩釜蒲鉾連合商工業組合）は、「震災で出荷がストップしている間に他産地の商品に切り替えられてしまい、それが戻ってきていない」と話します。

（株）丸ほ保原商店は、販路はすべて回復しましたが原料不足や取引先への出荷量減少で売上げは回復していません。「震災前は毎年約120トンから200トン出荷していた商品が、震災後は風評被害の影響で年間6トンにまで減った」と保原敬明さん。

（株）スイシンの小山洋一さんも「取引先は戻ってきたが、他社商品に切り替わった分が回復していないので売上げは震災前の7割。人手不足のため販路が増えても対応が難しいというジレンマもある」と言います。

宮城県漁協の芳賀長恒さんは「新たな付加価値を付けた商品を開発していかなければマーケットは受け入れてくれない。みんなで英知を出し合う必要がある」と、水産加工業界の今後の方向を話してくれました。

販路、生産量、労働力など3年の間に大きく変わった事業環境にどう対応していくか。被災地の企業は震災前以上に厳しい競争のなかを闘っていかねば、真の復興はない、という状況におかれています。

情報提供／みやぎ生協



「新しい提案」を実現するために新工場が稼働。
メカブのパッケージライン（丸ほ保原商店）。

【公 告】 奈良県生協連第25期通常総会開催について

当会 定款第49条にもとづき、奈良県生活協同組連合会第25期通常総会を下記の通り、開催致します。

記

1. 日 時 2014年6月21日（土） 10：00～12：30
2. 会 場 奈良ロイヤルホテル 奈良市法華寺町254-1 TEL. 0742-34-1131
3. 議 案
 - 第1号議案 2013年度事業報告・決算関係書類承認の件
 - 第2号議案 2014年度事業計画及び予算案決定の件
 - 第3号議案 監事監査規則変更の件
 - 第4号議案 役員選任の件
 - 第5号議案 役員報酬決定の件
 - 第6号議案 議案決議効力発生の件

4. 代議員の選出について

会員規約第3条及び第4条にもとづき、代議員は、会員ごとに定める選出方法により選出し、会員生協の定数は3人とします。

県連日誌

1月

- 6日 県庁・諸団体へ新年挨拶訪問
- 9日 奈良県生協連理事会
- 18日 第24回奈良県生協大会
- 21日 なら消費者ねっと運営委員会
- 23日 大阪府生協連
創立60周年記念式典
- 27日 消費税学習討論集会
- 30日 関西地連運営委員会
- 30日 県連活動推進会議

2月

- 8日 NPO法人サークルおてんとさんシンポジウム
- 10日 県環境審議会
- 12日 「地方消費者グループ・フォーラム」
- 18日 県消費生活審議会
- 20日 吉野共生PJ推進委員会
- 21日 生協組合員理事交流会
- 21日 里山再生のために～里山の持続的管理と利用を目指して～(奈良県森林技術センター)
- 24日 なら消費者ねっと運営委員会
- 25日 全国災害対策検討会(日生協)
- 26日 県農政推進会議農村活性化部会

3月

- 5日 近畿農政局奈良地域センター消費者団体意見交換会
- 7日 県食品安全・安心懇話会
- 8日 ピースアクションinなら
竹本成徳さん講演会
- 10日 近畿農政局と近畿地区生協府県連意見交換会
- 12日 近畿地区府県連協議会
- 13日 奈良県生協連理事会
- 17日 奈良県防災プラットホーム連絡会
- 25日 低炭素の地域づくり戦略会議・奈良
- 25日 なら消費者ねっと運営委員会

お知らせ

アースデー 2014in なら

1990年から環境問題を考え、行動する日として定着してきたアースデー。25回目を迎える今年も飛鳥石舞台周辺で開催します。

- 開催日時:平成26年4月20日(日) 10時～15時
- 開催場所:国営飛鳥歴史公園 石舞台広場
- 内容:「吉野共生プロジェクト」「菜の花エコプロジェクト」、パネル展示、模擬店、環境関連団体など出展、吉野特産物コーナー、体験コーナー、資源循環型コーナー、フリーマーケット
(主催 ならコープ 共催 奈良県生協連)

編集後記

この3月は私にとっては激動の月でした。出資募集説明会や信託会社とのやり取り、そして突然訪れた母の死。親孝行をできませんでした。できることを先送りしてはいけなさと後悔。残された父の心のケアに東京と奈良を往復します。(順)

今年も3月11日がやってきました。あの日感じた思いは今も私たちの心に深く残っています。(佳)

この思いを忘れず復興がかなうまで応援していきたいと思う一日でした。(佳)

新年度から新事務所にお引越しです。ここが生協活動の発信基地になるようにきちんと整理して、机が書類の山にならないようにと、気持ちも新たにスタートです。新しい建物の屋根の上にはもうすぐ太陽光パネルが乗り、市民共同の電気がつくられていきます。(由)

昨年度は、町内会(自治会)の役員に当たり、仕事をしながらの活動で大変でしたが、勉強にもなりました。普段何気なく使う「地域」とは何か、また、人と人とのつながりをどのようにして深めるのか、をあらためて考える機会ともなりました。(和)

お詫びと訂正

共生1月(NO.91)号2ページ本文「くらしやすい奈良の創造」の11行目の「平成27年4月スタート」は「平成28年7月スタート」の誤りでした。誠に申し訳ございませんでした。